



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

復活第5主日 C年 (2022年5月15日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 14章 21b—27節

第二朗読：ヨハネの黙示録 21章 1—5a節

福音朗読：ヨハネによる福音書 13章 31—33a、34—35節

神の栄光を現す愛

第一朗読の22節にある「多くの苦しみを^へ経なくては」に注目してください。パウロの信仰の理解には、イエス・キリストとの一致、特に苦しみを共にすることがありました。また23節にある「^{まか}任せた」は印象的な表現となります。パウロたちは福音を伝えます。しかし、パウロは信徒たちを自分の方に向かわせることはありません。神の方へと向かわせて「その信ずる主^{しん}に任せた」のです。パウロたちはあくまでも福音を語る人であって、信仰を^{しあ}仕上げてくれるのは神さまご自身なのです。

同じ視点から26節にある「神の恵みに^{めぐ}ゆだねられて」も味わえます。神さまの恵みが伝道旅行の間、ずっと寄り添っていたのです。ですからパウロが成し遂げたのではなく、神さまによって成し遂げられた宣教旅行だったのです。主語はいつも神さまです。あるいは宣教のイニシアチブを取っておられるのは神さまなのです。

第二朗読では4節の「最初のもの」を味わいましょう。死、悲しみ、嘆き、労苦らはすべて「最初のもの」に属しているのです。しかし、神さまが人の間に住む救いの時にはすべてが新しくされます。ですから3節の「人と共に住み」とは、新しい天と新しい地をもたらすために、神さまが自ら人々の間に住んでくださったことを指します。天の御父によるイエスさまのこの世への派遣はその前ぶれとなります。それで、5a節にある「見よ、わたしは万物を新しくする」という宣言の意味が明らかになります。神さまが新しいものとするこの世界は、二度と悪へと後戻りすることのない世界なのです。

福音朗読の冒頭の一節にある「栄光」(31節)はわたしたちの信仰にとって大切なことばとなります。31節と32節にある「栄光を受けた」、「栄光をお与えになる」はどちらもギリシア語で

はドクサゾーと言うそうです。栄光^{あらか}を表すドクサ^{どうしけい}の動詞形です。ドクサには輝き^{かがや}という意味がともとあります。その動詞形です。第一の意味として「人々がある人に抱く^{いだ}味方^{みかた}に影響^{えいきよう}を与え、その人の評判^{ひょうばん}を高める」、すなわち「ほめたたえる」があります(例：マタ5章16節参照)。

次に「光彩^{こうさい}を放つ^{はな}、偉大^{いだい}さをもたせる、輝き^{かがや}を着^きせる」の意味もあるそうです。イエスさまは神によって「輝きを着せられ」、神さまはイエスによって「輝きを着せられ」るのです。つまり、子であるイエスさまと父である神さまの間には「栄光^{えいこう}」が行き交^いうのです。イエスさまは父の栄光のために地上で行動し、父はイエスさまから栄光を受けるのです。

栄光はイエスさまと結びつきます。つまり、イエスさまの受難^{じゆなん}によって、神さまからは人の子であるイエスさまに栄光が与えられ、人の子からは神さまへと栄光が帰^きせられるからです。33節の「あなたがたと共にいる」はイエスさまの気持ち^{あらか}を表しています。そして弟子たちが、イエスさまと共にいた体験^{たいけん}こそが新しいエルサレム^{あらわ}が現れる時^{しやう}に生じる神が人と共に住むことの保障^{ほしやう}となります。

最後に、「あなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(35節)をここに明記^{めいき}しましょう。わたしたちが互^{たが}いに愛し合^{すがた}う姿の中に、イエスさまの弟子として生きる輝き、つまり栄光が現れます。わたしたちは道徳として人を愛するものではありません。イエスさまの輝き(栄光)を現すために愛するのです。イエスさまの栄光を現したとき、わたしたちは神さまの輝き(栄光)を現すものとなるのです。

合同堅信式のお知らせ

日時 : 5月22日 日曜日 雨天決行

午前11時より

グランドのルルド前にて

(8時半と9時半のミサはありません。ご注意ください。)

ミサ後 お弁当の販売があります。

グランドのあちらこちらでピクニック気分^{ピクニック気分}で召し上がってください。

自家製のお弁当も持ち込み可です。

みんなで楽しみましょう。